

ねらい	○他学年の子どもたちと交流し、親睦を深める。 ○異年齢でのコミュニケーションを促し、みんなが楽しめる居場所づくりをする。		
教科・領域	放課後子ども教室	時間	1時間
対象	小学3～6年生	人数	約20人
活動の流れ	活動名	概要	
	後出しじゃんけん	○「じゃんけん、ポン、ポン」とファシリテーターが出す手とあいこになる手を後出しする。勝ち、負けのパターンでも行う。	
	残りじゃんけん	○立ってファシリテーターとじゃんけんをし、勝つ以外の方は座っていく。最後に残った人に拍手を送る。あいこ、負けのパターンでも行う。	
	バロメーターチェック	○質問に対して、自分の気持ちを得点化した上で、立ち位置で表し、お互いの感じ方の違いを知る。 <div data-bbox="560 1137 1002 1211" style="text-align: center;"> </div>	
	じゃんけん ※アクティビティ集参照	○「みんなで楽しめるように考えて活動に取り組む」というめあてを確認する。 ○ペアでじゃんけんをし、あいこになったら成功。 ○ペアでじゃんけんをし、相手の出した手を「石・鉄・紙」のどれかで早く言い合う。 ○ペアでじゃんけんをし、ゲーム100円・チョコ20円・パー5円として、たし算をする。	
絆カード	○8種類の絵が描かれたカードを見せ合い、お互いのカードに共通する絵柄を早く見つける。5人と取り組んだ人から輪になる。目標は全員クリア。		
キャッチ ※アクティビティ集参照	○全員で輪になり、左手は上向き、右手は短いロープを持って、隣の左手の上に垂らす。「キャッチ」の掛け声で、左手はロープをつかみ、右手のロープは逃げる。		
○留意点		●指導者の視点	
		○じゃんけんの時にファシリテーターの手を見ていたように、しっかり見ながら話を聞いてもらえると嬉しいというメッセージを伝える。 ●ルールを守って活動に取り組んでいるか。 ○みんなで活動を楽しむために大事な要素として、ルールを守ることや仲間を認めること(拍手等)があることを伝える。 ○質問項目 ・運動/ゲームが好き。 ・みんなの名前が分かる。 ・誰とでも話せる。 ・みんなで活動を楽しみたい。 ●ペアを作るために自分から声を掛けているか、待っているか。 ●特定のメンバーとのみ関わっているか、自ら関わりを広げているか。 ●勝敗ではなく、関わりを楽しむ雰囲気があるか。 ●目標達成のため、クリアした人がどんな動きをしているか。 ○活動の切り替えに時間がかかる場合は、みんなが楽しむために何が必要か投げかける。 ○エラーを楽しむ気持ちが失敗を恐れずチャレンジする土台になる。	

	<p>フープリレー ※アクティビティ集参照</p> <p>バロメーターチェック</p>	<p>○全員で輪になり手をつなぎ(または隣と短いロープを持ち合い)、輪の1か所にフラフープを通す。つないだ手が離れないようにフラフープを1周させる時間を縮めていく。</p> <p>○「みんなが楽しめたか」という問いに対して、自分の気持ちを得点化した上で、立ち位置で表し、活動前との変化を確認する。</p>	<p>●エラーが起こった時に、どんな声掛けがあるか。</p> <p>●時間を縮めるためにどんなアイデアを出し、どのように合意形成を図っているか。</p> <p>○活動中のどんな要素が変化につながったかを振り返る。</p>
<p>振り返り</p>	<p>○活動前と活動後でめあてに対する心の状態がどのように変わったか。どんな出来事その変化につながったか。</p>		
<p>準備物</p>	<p>絆カード、短ロープ、フラフープ、ストップウォッチ</p>		
<p>参加者の様子や感想</p>	<p>○初めのうちは、なかなか参加に前向きになれない児童もおり、活動の切り替えにも時間がかかっていたが、じゃんけん等のペア活動を繰り返して関わりを広げる中で、徐々にみんなが活動を楽しもうとする意識が芽生えていった。</p> <p>○「フープリレー」では、学年関係なく様々なアイデアを出し合い、失敗しても粘り強く目標達成に向けて挑戦を続けることができた。目標タイムを更新した際には、大きな歓声が上がり、自分たちの力で目標を達成した喜びを共有する姿が見られた。</p> <p>○指導者からは、活動を通して、初めはバラバラだった子どもたちが最終的に一つの目標に向けてまとまっていった姿が参考になったとの感想をいただいた。</p>		
<p>指導に係る気付き</p>	<p>○全体的に自由な雰囲気それぞれが好きなことをしている様子だったが、活動を通して「みんなで楽しむ」ために何が必要かを問い続ける中で、徐々にみんながまとまって活動に取り組む楽しさを感じる雰囲気が生まれたように思う。</p>		